

シノドスの教会をよりよく理解するために（その一）

小西広志

2021年10月29日

はじめに

東京教区の皆さん、こんにちは。東京教区シノドス担当者の小西広志神父です。シノドスの教会をよりよく理解するためにと題して数回にわたって教会の本質、特徴についてお話ししましょう。

教会とは何でしょう？

前回の復習

前はシノドスとは、「共に歩む」ことだと申し上げました。教会がもともと備えている特徴の中に、この「共に歩む」というものがあるのです。今回はもう少し深く教会の本質について考えてみましょう。

教会は天の御父のみ心から始まる

教会の本質について考える時に、天の御父の救いの想いを出発点とします。天地の創造主である神は、すべての被造物を治めています。そして、すべての被造物が残りなくご自分の許へと帰ってくることを願っておられます。これが救いについての神の想いです。この想いは三位一体の神の第一格である父なる神さまによく現れます。ですから、教会の起源は父なる神さまから始まるのです。

カテキズムの言葉

『カトリック教会のカテキズム要約』、通称『コンペンディウム』では教会と教会の起源を次のように記しています。

147 「教会」ということばは何を意味していますか。

教会とは、信仰と洗礼によって神の子ら、キリストの肢体、聖霊の神殿となる人々の集まりを築くために、神が地上のあらゆる場所から招集し、一つにお集めになる民を指します。

集まりを築くために、神が…あらゆる場所から招集し、

この一文から見えてくるのは、まず教会が「人々の集まり」であるという事実です。ですから、教会とは単純に「集い」なのです。もちろん、人の集まりですから組織としての役割とか、組織を束ねるための規則が不

可欠であるのは確かです。しかし、教会のもっとも根本的なところに、建物でもない、組織や機関でもない、ましてや規則や典礼でもない、「人々の集まり」があるのです。言いかえれば、教会の根本は「人」なのです。そして、この「集まりを築くために」働かれたのは神さまご自身です。神さまを通じてあらゆるところから呼び集められた人々の群れ、団体が教会となります。神さまが呼び集めてくださったのだという意識が教会を作り上げるのです。ですから、教会は神的な存在です。日本では教会と教えの会と記しますが、ギリシア語を起源とする「エクレジア」は「呼び集められたものの集い」というのが元々の意味です。

一つにお集めになる民を指します。

「一つにお集めになる民」とはどのような意味でしょう。神さまが、もっと正確に言えば天の御父がイエスさまを通じて、聖霊の働きの中でお集めになった人の群れは一つです。一つというのは他にはないの意味だけではなく、神さまがすべてを一つに集めようとなさっているという意味でもあります。こうして、神さまによって集められた人々は、教会を形成していくのです。引き続き『コンペンディウム』が語ることばに耳を傾けましょう。

149 教会の起源と完成とはどのようなものですか？

教会は、その起源と完成を神の永遠の計画の中に見いだします。教会は、旧約において、諸国民が将来再び一つに結ばれるしるしとしてのイスラエルの選びによって準備されました。そして、イエスのことばと働きによって設立され、とくにイエスのあがないの死と復活によって実現しました。さらに、聖霊降臨の日に、聖霊の注ぎによって、救いの神秘として現されました。教会は、世の終わりに、あがないの死と復活によって実現しました。教会は、世の終わりに、あがないの死と復活によって実現しました。教会は、世の終わりに、あがないの死と復活によって実現しました。

起源と完成は神の永遠の計画の中に

先ほど、御父の想いといいましたが、言いかえれば、御父の救いのご計画です。計画ということばはあまり適切でないかもしれませんが。救いのプランあるいは救いのデザインと言ってよいでしょう。教会の始まりは三位一体の神さまの被造物への救いのデザインの中にあるのです。ですから、教会の起源は三位一体の神さま、とりわけ父である神さまです。

イエスのことばと働きによって設立され

イエスさまは天の御父の想いを引き継ぎます。イエスさまの地上のことばとわざは、すべて天の御父の想いを伝えるためです。ですから、イエスさまによって教会は具体的にこの地上に設立されます。とりわけ、イエスさまの受難、死、復活の出来事を通じて、教会は生まれていきます。なぜなら、イエスさまの救いのわざ、あがないのわざは十字架に表れるからです。イエスさまはすべての人の救いのために十字架に架けられたのです。十字架のもとで人は父である神さまへと帰って行くのです。

聖霊の注ぎによって救いの神秘として現されました。

そして、聖霊の導きと力を得て、教会は生まれます。そして、今も教会の中に聖霊が満ちあふれています。聖霊は愛の霊です。イエスさまが御父の想いを生きるために、またその想いを示すために、そして御父からの愛に生きたように、教会も愛の霊である聖霊に満たされて、導かれて、そして力づけられて、神秘的に地上にあり続けるのです。教会は歩みの途上にあります。ですから、すでに教会は始まっていますが、いまだ完成にいたってません。この「すでに、しかしいまだ」という終末的な時間の中で教会はあるのです。教会が

どのように完成するのか、それは天の御父だけをご存じです。

宣教司牧方針から

こういった、三位一体の神さまを現す教会について、わたしたちの宣教司牧方針はどのように言っているのでしょうか。

[教会は] 三位一体の神のお姿をこの世にあらわしていくものなのです (p.13)

もともと原文は「宣教司牧方針」はとなっています。教会ということばに置き換えてもよいでしょう。教会は組織ではありません。ヒエラルキーでもありません。教会は「集まり」なのです。しかも、神秘的な「集まり」なのです。一見、人間的な側面を持ちながらも、実は神的な側面が教会にあるのです。なぜなら、教会は三位一体の神のいのちの中にある愛の「交わり」をこの世に現していくからです。

教会は三位一体の神の写し絵

■父と子と聖霊の神のいのちの中にある豊かで深い交わり、この交わりが教会を通じてこの地上に現れる。ですから、教会は三位一体の神の写し絵です。人々は教会を見て、教会に入って、教会での交わりを通じて、父と子と聖霊の神へと出会っていくのです。中でも「交わり」は大切な要素となります。なぜなら、三位一体の神のいのちの中には豊かな「交わり」があるからです。

■だからこそ、教会の中には人と人、人と神との交わりが存在する。父と子と聖霊の神が愛の交わりの神だからこそ、それをこの地上に写し出す教会には、人と人の豊かな「交わり」が存在し、人と神との「交わり」が生まれるのです。

次回：教会のイメージ

今回は、教会についての豊かなイメージについてお話ししましょう。教会とは「キリストのからだ」であり、同時に「神の民」なのです。それではまた。